

平成 15 年度

北嶺中学校入学試験問題

国 語

(注意)

- 1 問題用紙が配られても、「はじめ」の合図があるまでは、中を開かないでください。
- 2 問題は全部で **4 枚** で、解答用紙は 1 枚です。「はじめ」の合図があったら、まず、ページ数を確認してからはじめてください。もし、ページがぬけていたり、印刷されていなかったりする場合は、静かに手をあげて先生に伝えてください。
- 3 答えはすべて解答用紙の指定された解答らんを書いてください。
- 4 字数が指定されている場合には、特に指示のないかぎり句読点も数えてください。
- 5 質問があったり、用事ができた場合には、だまって手をあげて先生に伝えてください。ただし、問題の考え方や、言葉の意味・読み方などについての質問には答えられませんので注意して下さい。
- 6 「おわり」の合図で鉛筆をおき、先生が解答用紙を集めおわるまで、静かに待っていてください。

— 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「わたし」は心臓手術を受けるために入院している。その病室は、もともと一部屋だったところを二つの個室に改造したもので、間に木の扉があり、そこを開けると廊下を通らずに行き来できるようになっている。となりの部屋に入院している田村さんというおじさんとその奥さんは、「わたし」やママにとっても優しく、よき相談相手でもあって、親しくなってきたら間の扉を開け放しにしていた。その田村さんが亡くなり、となりの部屋は空っぽになってしまった。

田村のおじさんの後にどんな人がはいつてくるのかわたしはとても気がかりだった。ママも同じとみえて、

「田村さんのようにあの扉を一日あけていられるような人だったらいいのに……」

と（A）いつていた。

わたしは四回目の手術を受けなくてはいけないことになっていた。

わたしはだれに、どんなにいわれても、今度は a. ゼツタイ に、うんといわないことにしていた。手術の前のいろいろな検査はともつらい。なんにも食べられなくて吐いてばかりいるのはなんとかしんぼうできても、とても重い石の下敷きにされて、身動きどころか苦しいって叫ぼうとしても、びつとも声がでないときのつらさはだれにもわかりはしない。

わたしはもう青いミミズみたいになって、自分がそこにあることをずっと呪っている。

わたしはもう三回も死んでいる。わたしは死神にかわいがってもらった子。わたしがつい、ママをいじめてしまうのは ① そんな不公平 に腹を立てているからかも知れない。

となりの病室にはいる人がいい人だったらしいのになと思うのは、わたしがママをいじめても、田村のおばさんのようにママをなぐさめてくれる人だったらいいというわたしの ② 虫のいい 考え。

田村のおじさんが亡くなってからちょうど一週間目、その部屋にはいつてきた人は中年の男の人だった。

わたしは（B）した。その人がいやな人っていうわけじゃないけれど、わたしは若い女の人だとばかり思っていて、ありもしないことをいろいろ空想して楽しんでたときだったから、もうその空想を奪われてしまうということに（B）したというわけ。

その人立木さんは神戸の舞子からきた人なので、完全 b. カンゴ で付き添いさんもついていた。付き添いの長谷川さんはやせた人で細い目が少しつり上がっている。冷たい感じのする人で、わたしの好きでないタイプ。

立木さんは入院の日にあいさつにきた。

「神戸のお菓子です」

といて、マロングラッセを差し出した。マロングラッセなんかどこにも売っているのになわたしはそのとき思った。

わたしはママにはいじわるするけれど、外の人には愛想はいい。

「あなたは ③ 内弁慶 ね。あなたが男だったらあなたの奥さんになる人は不幸よ」とママがいったことがある。

わたしはが外の人に愛想がいいのは、自分が恐がりの性格だからだと思う。

変にとりつくろうような人の関係もいやだけど、少しくらい嘘でもいいから自分の気持を楽にさせてくれるようなつながりの方がいい。

たとえばママとパパがけんかをして、わたしがそのあいだで（C）しているより、パパのいない子といわれても、毎日、平和に過ごす方がいい。わたしは *. エゴイスト みたい。

立木さんはわたしの顔を見て、

「ぼくはラッキーです」

とママにいった。

ママが（D）顔をすると、立木さんは、

「ぼくは子どもの c. 笑顔 がとても好きです。この人、ぼくを好きになってくれないかなあ」といった。

④ この子 といわないで、この人といつたところにわたしは好感を持った。

「子どもさんがおいですか」

とママがたずねた。

「はい。上がことし一年生で女の子です。それから二つずつあいて、男の子、男の子といいます。下はやんちゃで困ります」

立木さんは d. 生真面目 にこたえた。

「おさびしいですねえ」

「はい」

やっぱり立木さんは生真面目にこたえた。立木さんの表情が明るいので、この人の病気は軽いのかなとわたしは思った。立木さんの立ち振舞や、ものの言い方に変なところがある。わたしは直観的に、それが立木さんの病気だと思った。

全体にだるい感じで体を動かすし、ものの言い方も、重くて仕方のない舌を無理に動かしているというぐあいだった。目がとてきれいな人だった。もともと目の玉をきよきよる動かす人でないのか、やっぱり病気だからそうなのか、じつと一ところを見て話をする。

その夜、ママにきいた。

「その扉、あけてもいい人だとママは判断した？」

さあとママはいった。

「まだ、よくわからないし、それに男の人だもんね」

そういいながら、ママはまんざらでもなさそうな顔つきだ。

(灰谷健次郎「燕の駅」より)

【語注】

*i エゴイスト…自分勝手な人。

問一 ——— a、d について、カタカナは漢字に改め、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

問二 (A) () (D) に入れる言葉として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(A)	ア 悲しそうに	(B)	ア びっくり	(C)	ア どきどき	(D)	ア 不思議そうな
	イ 心細そうに		イ ゆったり		イ わくわく		イ 悲しそうな
	ウ 懐かしそうに		ウ ほんやり		ウ びくびく		ウ 楽しそうな
	エ 待ち遠しそうに		エ がっかり		エ きよきよ		エ 不安そうな

問三 ——— ① 「そんな不公平」の内容を、わかりやすく説明しなさい。

問四 ——— ② 「虫のいい」、③ 「内弁慶」の意味を、わかりやすく説明しなさい。

問五 ——— ④ 「この子といわないで、この人といったところにわたしは好感を持った」とありますが、「わたし」はなぜそう思ったのですか。説明しなさい。

問六 「わたし」が「立木さん」に出会ってからの心情の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 空想していたような女の人ではなかった上に、立木さんの動作や話し方になじめず、田村さん夫婦とのようには親しくなれそうもないと、落胆している。

イ 空想していたような女の人ではなかったけれど、立木さんの誠実であたたかい人柄を感じ、これから親しくつきあっていけそうだと期待している。

ウ 立木さんの明るい表情に好感を持ったが、ママは立木さんにあまりよい印象を持っていない様子なので、親しくつきあっているものかどうか心配している。

エ イメージしていた通りの人があらわれ、話しをしてみてもとても感じがよかった上に、ママも立木さんを気に入っているようなので、ほっとしている。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

もう十年も前になるが、私が札幌に住んでいた時、たまたま東京から来た文化人に、「吹雪を見たいのだが、どこかいとところを知りませんか」と尋ねられたことがある。

食べ物店やスキー場ならともかく、吹雪を見たいとは変わった人だと思ったが、仲間の一人が、「この近くなら、*_i 石狩の河口のあたりがよく吹雪きます」と答えた。

結局、いい出したその仲間が翌日、車で案内することになって行ってきたが、彼が帰っているのには、河口は運よく吹雪で、文化人氏は「こんな素晴らしい自然を放つとくのはもったいない」といって感激したというのである。

せっかく東京からきた人が喜んでくれたことは嬉しいが、私はこの吹雪見物には、① なにかしつくりしないものを感じた。正直にいうと、当時の私にとって、雪は美しいものでも、感激すべきものでもなかった。雪は寒さの象徴であり、積もれば雪かきと屋根の雪おろしという a 仕事が増え、車はエンジンがかからなくなり、道は渋滞し、電車は動かなくなり、重い *_o オーヴァーと長靴をひきずって歩かねばならない、面倒で厄介なものでしかなかった。まして吹雪を楽しむ、などという b 発想はどこにもない。激しく降り続ける雪など、白い悪魔以外のなにもでもなかった。

東京から来た人が、吹雪に憧れる気持はわかりながら、私はアその人に、「イあの河口で雪にうもれて、吹雪がやむのをじつと待っている人がいるのです」といいたい衝動にかられた。

(A) その人は、旅人として吹雪を見て ② 感動したのであろう。その土地に永遠に住む人としてでなく、いやになったらい

つでも南の国へ戻っていけない人として、吹雪を見たに違いない。出ようとしても、そこから出られない人と、ウ、いつでも出られる人とは視点はおのずから違う。そして、この違いは雪にかぎらず、地、c「方」の風物から生活を見る目まですべてに現われてくる。

たとえば東京の人達が地方に行くと、よく東京の公害のひどさを訴え、あれを残せ、ここはこのままに、というようなことをしきりにいう。(B)それが地方にとつてやりきれない負担であり、不合理なものであっても、それがまるで正義のように押しつける。たしかにそうしたものを残すことが、地方の独自性を保ち、東京人の夢を誘うものであるかもしれないが、そういつている人のはたして何人が、その土地に住む立場でいつているだろうか。

この地に生活している者とエ、そうでない者、さらにいえばこの地に永住せざるを得ない者と、一、二年後に移る目途のある者とは、その土地への思いは天と地ほどの開きがある。

かつて^{*3}北海道庁の赤レンガを壊す話が出た時、道外のいわゆる文化人や^{*4}有識者と名のつく人は、こそつて反対した。せっかくの明治の由緒ある建物を壊すとは、なんたることか、といった意見である。今の私も東京からこれと同じことをいうに違いない。

たしかにこれは文化的に正論に違いない。それに誤りはない。だが、そのことを承知の上で当時の私は、簡単に③その意見に同調する気にはなれなかった。

私の友人である道庁の職員は、当時その赤レンガの地下室で仕事をしていた。暗く湿気の多い牢獄のようなところで、彼は昼間も電灯の下で事務をとつていた。オ、その人達の不d「快」さに、赤レンガと池だけを見にくる観光客の何人の人が気付いただろうか。建物は何年に一度、^{*5}たまさかな、物見遊山にくる人のためにあるのではない。そこで働く人のためにあるのだ。これもまた一つの正論のはずである。

(渡辺淳一「雪の北国から」より)

【語注】

^{*1}石狩の河口：「石狩」は札幌市の北方にある地名。または、北海道一長い「石狩川」のこと。

^{*2}オーヴァー：オーバー。オーバーコート。

^{*3}北海道庁の赤レンガ：明治二十一年に開拓使札幌本庁舎として建築された建物。国の重要文化財。

^{*4}有識者：広い知識や高い見識をもっている人。

^{*5}たまさかな：思いがけない様子。めったにない。

^{*}物見遊山：見物して遊びまわること。

問一 ——— a「仕事」と同じように、「音読み+訓読み」の熟語(二字)を一つ、考えて書きなさい。

問二 ——— b「発」、c「方」、d「快」について、次の太線部分はそれぞれ何画目に書くのが適当ですか。その数字を答えなさい。

b 発 c 方 d 快

問三 (A) (B) にあてはまる言葉として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア もはや イ たとえ ウ まさか エ まるで オ おそらく

問四 ~~~~~ ア「その人」と内容的に同じ種類のものを、~~~~~ イオより全て選び、記号で答えなさい。

問五 ——— ①「何かしつくりしないものを感じた」とありますが、これは「私」が雪をどのようにとらえていたために生じたものですか。説明しなさい。

問六 ——— ②「感動した」とありますが、「誰が」「何を」「どのようなものとして」感動したのですか。詳しく説明しなさい。

問七 ——— ③「その意見」の指し示す内容を答えなさい。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

もう一カ月以上前になるが、米国シカゴ郊外にあるブルックフィールド動物園で、囲いの中に落ちた三歳の子供をゴリラが助けて運ぶ事件があった。ちょうどその一週間前、私はこの動物園を訪れていたので「ああ、あのピンティが」と^{*1}感慨もひとしおだった。ピンティはオハイオ州にあるコロンバス動物園生まれのメスで、今年八歳になる。母親が子育てを放棄したため、人間の飼育員に育てられた。動物園ではよくあることだ。最近ブルックフィールド動物園へ移ってきて、赤ん坊を出産したばかりである。少し前にオスが病死して、メスと子供ばかり七頭の集団で暮らしていた。

(A)なぜこれが「事件」なのか。一般に野生動物は人間と利害をともにすることはしない。(B)、人間に迫害されて強い恐怖や敵愾心を抱いていることが多い。(C)、ゴリラは人間より数倍力の強い猛獣である。(D)誰もが、囲いの中に落ちた人間の子供をゴリラが襲う、という惨劇を予想したに違いない。(E)、ピンティは子供の窮地を理解し、落ちて気を失った子供を抱えて飼育員の出入り口まで運んだのである。

動物園のゴリラにまつわる①うれしい誤算は、これがはじめてではない。数年前イギリスのジャージー動物園でも似たような事

件が起きたことがある。この時は、五歳の子供が二百キログラムを越えるオスの目の前に落ちた。観客は、オスゴリラの太い腕と鋭い犬歯で引き裂かれる子供の姿を想像して目をおおった。しかし、このジャンボというオスゴリラは、泣きじゃくる子供を安否を気づかうようにのぞき込み、何も手出しをせずにその場を離れたのである。

これらの美談の陰には、思いがけない真実が隠されている。人間以外の動物でも、自分以外の種の生存に積極的に力を貸すことがあるのだ。この場合、イヌやネコなどの動物は除外して考えよう。②彼らは長い間人間と共生関係をつくってきたのだから、人間の行動をよく知っているし、人間を助けることが彼らの利につながることも心得ているはずだ。

ピンティも人間に育てられた経験をもっている。動物園で人間の子供を見て知っているし、自らも赤ん坊をもつ母親でもある。しかし、それだけの理由でこの快挙が実現したとは思えない。ピンティは人間の子供の危機を理解し、とっさに何が必要かを判断し、子供を脅かさないように行動しなければならなかった。③それができたのは、ピンティに人間の行動やその意図をよく理解し、人間に不安を与えずに接する能力が備わっていたからである。

実は、ゴリラはこの能力をもつ④類まれな動物なのである。野生のマウンテンゴリラは、ハイラックス(岩狸)、ダイカー(カモシカの仲間)などの小動物や、フクロウ、カメレオン、カエルといった自分とはるかに類縁関係の遠い動物たちと遊ぶことがある。私も何度か目撃したことがあるが、その都度ゴリラは相手の動物の習性に合わせ、うまくその動物特有の動きに同調して遊んでいた。

以前、アメリカで手話を覚えたメスゴリラのココが、子猫をベットにして遊んでいるのが話題になったことがある。イギリスのハウレット動物園でも、園長の三歳になる孫娘がゴリラと仲良く遊ぶ姿が放映され、人々の驚きを誘った。これらの事例はみな、ゴリラがへ

⑤ 能力をもつことを示唆している。

もちろん、人間もこの能力をもち、多くの動物をベットにしてつき合っている。しかし、それはゴリラと同じではない。おもしろいことに、ゴリラよりも人間に近いと言われるチンパンジーは、他種の動物と違う遊び方をする。私はスペインのバルセロナ動物園でチンパンジーがハトを捕まえたのを見たことがある。このチンパンジーはハトを弄んで羽を折ってしまい、それから頭の上にかざして飛行機のように飛ばそうとして走り回った。タンザニアのゴンベ国立公園ではチンパンジーが餌場に出てきたヒヒと一緒に遊んだりもするが、子供のヒヒを捕まえて食べることもある。チンパンジーも他種の行動を読む能力があるが、自分の感得した世界に相手無理矢理引きずり込んで遊んだり利用する方法を好むようだ。私たち人間は、ゴリラ的な世界も⑥チンパンジー的な世界ももち合わせている。

これまで、私たちは、人間だけが自分たち以外の生命を気づかい、その将来を考えることができるか、と自負してきた。しかし、それはとんでもない思い上がりだったかもしれない。他の生命を救うどころか、利用し尽くした末に滅亡の危機に迫りつめ、さらに都合の良いように改造していこうというのが人間の姿勢である。それは、他種の仲間と傷つけ合わずに共存しようとするゴリラの流儀とは遠いところにある。ピンティの美談が、人間と野生動物とのつき合い方を反省するきっかけになればと思わずにはいられない。

(山際寿一「ゴリラの思いやり」より)

【語注】

*₁ 感慨もひとしお：深く心に感じ、思いにひたること。

*₂ 窮地：困りきった状態。

*₃ 安否を気づかう：無事かどうかを心配する。

*₄ 示唆：それとなく示していること。ほのめかすこと。

*₅ 感得：感じとって理解すること。

問一 (A) (E) にあてはまる言葉として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア それどころか イ ましてや ウ ところで エ このため

問二 ①「うれしい誤算」の内容をわかりやすく説明しなさい。

問三 ②「彼ら」、③「それ」の指し示す内容を、本文中の言葉で答えなさい。

問四 ④「類まれな」の意味を答えなさい。

問五 ⑤ へにあてはまる言葉を、考えて答えなさい。

問六 ⑥「チンパンジー的な世界」とありますが、これはどういうことを言っているのですか。説明しなさい。

問七 本文の内容としてあてはまるものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間は野生生物とどのようにつき合えばうまく利用できるか、よく考えなければならぬ。

イ 人間は他の生物を気づかうことのできる唯一の動物なのだから、その責任を果たさなければならぬ。

ウ 人間は他の生命と同調し、不安を与えたり傷つけあわずに、共存する方法を身に付けなければならぬ。

エ 人間は人間以外の生物のことも考えに入れて、どの生物を利用するか、滅亡させるかを決めなければならない。